

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策No.	4131	施策名	おいしい水産物がとれるまち	主担当課	農政水産課
大項目	活気あるまちづくり			関係課	
基本方針	漁場の整備を行い、魚の住みやすい環境をつくとともに、漁協の実施する稚魚の放流を支援し、水産資源を増やし、水産物の安定供給と漁業経営の安定を図ります。 安くて新鮮な水産物を供給するため、販売ルートの開拓や直販体制を支援します。 漁業従事者の高齢化が進み、後継者が少ないため、担い手を育成します。また、漁業協同組合組織の機能強化を図り、安定した漁業活動を目指します。 こうした取組によって、おいしい水産物が豊富にとれるまちを目指します。				

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	水産業振興事業												
事務事業の目的			事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
漁業者及び市民		漁家経営が安定及び維持できるよう事業実施を行い、漁業振興を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・漁業振興特別対策事業 ・海洋牧場管理運営に対する補助 ・漁業近代化資金に対する利子補給 ・漁船保険に対する補助 									
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度					
取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ○漁業振興特別対策事業 ・水産基盤整備事業(大島人工干潟裏埋工 H17~H23) ・栽培漁業及び種苗放流事業 ○漁業近代化資金に対する利子補給 ・件数 延べ2件 ○海洋牧場管理運営に対する補助 ○漁船保険に対する補助 ・件数322件(徴収保険料の25%) 		<ul style="list-style-type: none"> ○漁業振興特別対策事業 ・大島人工干潟におけるアサリ増殖調査事業開始 ・栽培漁業及び種苗放流事業 ○漁業近代化資金に対する利子補給 ・件数 延べ1件 ○海洋牧場管理運営に対する補助 ○漁船保険に対する補助 ・件数321件(徴収保険料の25%) 		<ul style="list-style-type: none"> ○漁業振興特別対策事業 ・大島人工干潟におけるアサリ増殖調査事業 ・栽培漁業及び種苗放流事業 ・漁業者の研修会(第1回)実施(テーマ:漁業制度について) ○漁業近代化資金に対する利子補給 ・貸付決定 2件 ○海洋牧場管理運営に対する補助 ○漁船保険に対する補助 ・件数312件(徴収保険料の25%) 		<ul style="list-style-type: none"> ○漁業振興特別対策事業 ・大島人工干潟におけるアサリ増殖調査事業 ・栽培漁業及び種苗放流事業 ・漁業者の研修会(第2回)実施(テーマ:漁場環境について考える) ・浜の活力再生プラン策定 ・播種法を用いたアマモ場造成(再生)試験 ○漁業近代化資金に対する利子補給 ・件数 延べ2件 ○海洋牧場管理運営に対する補助 ○漁船保険に対する補助 ・件数294件(徴収保険料の25%) 					
直接事業費		決算額	9,106	千円	決算額	5,522	千円	決算額	5,567	千円	決算額	5,639	千円
		うち一般財源	5,656	千円	うち一般財源	4,789	千円	うち一般財源	4,831	千円	うち一般財源	4,889	千円

2		水産物流通促進事業										
事務事業の目的		事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
漁業者及び市民		漁家経営が安定及び維持できるよう、また、新鮮な魚の提供、直販体制の充実を図る。 レシピ作成を支援し、新鮮な魚による料理の普及を図る。				<ul style="list-style-type: none"> 新鮮な魚の販売ルート開拓、直販体制の支援 レシピ作成への支援 						
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度				
取組内容	●販売ルート開拓、直販体制の支援 ・2漁協による直販体制及び魚まつり(瀬戸の市魚まつり・かさおか鮮魚市かき祭り)支援 ・笠岡市漁協荷さばき施設運営委員会との運営改善にかかる検討 ・笠岡の水産物ブランド化の検討 ●レシピ作成への支援 ・市民活動団体等での「試食交流会」の実施協力		●販売ルート開拓、直販体制の支援 ・2漁協による直販体制及び魚まつり(瀬戸の市魚まつり・かさおか鮮魚市かき祭り)支援 ・笠岡の水産物ブランド化の検討 ●レシピ作成への支援 ・生活交流グループ協議会による魚食普及活動の検討協議		●販売ルート開拓、直販体制の支援 ・2漁協による直販体制及び魚まつり(瀬戸の市魚まつり・かさおか鮮魚市かき祭り)支援 ・外浦朝市の開設支援 ・笠岡の水産物ブランド化の検討 魚の神経絞め実地講習会事業の受入実施 ●レシピ作成への支援 ・生活交流グループ協議会による魚食普及活動の検討協議及び魚利活用研究		●販売ルート開拓、直販体制の支援 ・2漁協による直販体制及び魚まつり(瀬戸の市魚まつり・かさおか鮮魚市かき祭り)支援 ・笠岡市漁協荷さばき施設ミーティングにおける笠岡諸島の漁獲物の全量集荷の方策検討 ・笠岡の水産物ブランド化の検討 ●レシピ作成への支援 ・生活交流グループ協議会による魚食普及及び魚利活用メニューの検討・試作					
	直接事業費	決算額	1,074	千円	決算額	955	千円	決算額	873	千円	決算額	1,050
	うち一般財源	358	千円	うち一般財源	257	千円	うち一般財源	291	千円	うち一般財源	350	千円

3		漁村整備・交流事業										
事務事業の目的		事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
漁業者及び市民(主として小学生)		漁家経営が安定及び維持できるよう事業実施を行い、漁業振興を図る。 海辺の体験学習を通じて担い手を増やす取組を進める。				<ul style="list-style-type: none"> 燃料補給施設の建設(金風呂港)(22~23年度) 海辺の体験学習 						
		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度				
取組内容	●漁船整備事業 ●海辺の体験学習 ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島わんぱく海遊楽校 参加者 59人 白石島親子ふれあい地引綱 参加者 83人 大島海辺の教室(金浦小5年生) 参加者 95人		●海辺の体験学習 ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島わんぱく海遊楽校 参加者 67人 白石島親子ふれあい地引綱 参加者 84人 大島海辺の教室(笠岡小5年生) 参加者 60人		●海辺の体験学習 ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島親子ふれあい地引綱 参加者 92人 大島海辺の教室(中央小5年生) 参加者 194人		●海辺の体験学習 ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島親子ふれあい地引綱 参加者 59人 大島海辺の教室(今井小3, 4, 5年生) 参加者 90人					
	直接事業費	決算額	620	千円	決算額	603	千円	決算額	794	千円	決算額	615
	うち一般財源	620	千円	うち一般財源	603	千円	うち一般財源	794	千円	うち一般財源	615	千円

<3.施策の直接事業費(2の合計)>

		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
直接事業費		10,800	千円	7,080	千円	7,234	千円	7,304	千円
うち一般財源		6,634	千円	5,649	千円	5,916	千円	5,854	千円

<4.指標>

指標名			目標・実績の推移						
			H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標	
1	漁獲高	単位	目標				695,000	695,000	700,000
		千円	実績	680,423	699,273	693,146	612,423	649,055	
			達成率				88.1%	93.4%	
2	漁業協同組合員数	単位	目標				340	340	340
		人	実績	387	369	336	320	308	
			達成率				94.1%	90.6%	
3	新規加入就業者数（新規の正組合員）	単位	目標				4	4	5
		人	実績	7	2	2	1	3	
			達成率				25.0%	75.0%	
4	漁業体験参加者数	単位	目標				286	200	220
		人	実績	235	237	211	286	149	
			達成率				100.0%	74.5%	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
<p>・農商工連携による鮮度維持をもとにした高付加価値化や、加工による高付加価値化を目指す必要があると考えられます。</p> <p>・地域ブランドを発展させるためにも、農業、漁業、林業、工業、商業、その他特色のある各業を融合させた場を以って進めていかなければ市民の総意として、特色を生かすことはできないと思います。部を越えた協同を希望します。</p>	<p>・水産物に関していえば、本年度（平成26年度）、市内漁業者全員を構成員とする岡山県地域水産業再生委員会笠岡市地区部会を設置し、漁業者主体による「浜の活力再生プラン」を策定し、その中で、次の3項目をプランに掲げております。①鮮魚を神経絞めることで鮮度維持及び旨味の長時間保持を図る。②多く漁獲されるガラエビ、殻付きキキをCAS冷凍で保存し、鮮度・旨味の維持による高価値化につなげる。③漁獲過剰による低価格魚や低利用魚を干物加工して高付加価値化を目指す。こうした計画をより具体的に実現させるべく、農商工連携の事業展開につなげていく方向で進めてまいります。</p> <p>・既存の「笠岡ブランド」における水産物に関しては、瀬戸内ど真ん中のり（せのお水産）と灰干し（株式会社島のこし）が認定されていますが、それぞれが単独での販売であり、「笠岡ブランド」が地域ブランドとして機能していないのが現状です。また、地域ブランドとしての認知度も高くない実態があります。</p> <p>→ 地域ブランドを確立していくためには、地域に住む人々が自らの地域に誇りと愛着を持つことが必要です。現在、地域住民、生産者、商工業者等多くの関係者が参加する「かさおかブランド協議会」におきまして、市民参画、協働のもとに、笠岡青年会議所が事務局となり積極的に事業を進めております。笠岡市行政も、担当課及び関係課の職員が参加し、共に活動しております。今後、活動の進捗状況により、さらなる関係課の協力を求めてまいります。</p> <p>あわせて、平成26年3月に産業振興ビジョンを策定し、この産業振興ビジョンの具体的施策を計画的に実施するために4月にかさおか新しいごとづくりセンターを建設産業部に設置しております。センターでは、企業誘致、中小企業振興、起業支援に加えて、笠岡ブランドの推進や農林水産業の6次産業化や観光振興にも取り組むこととしており、まさに、各業を融合させた施策の推進を目標に事業展開をしていきたいと考えます。</p>
<p>・地元産の水産物は人気があるのですが、漁獲高が少なくブランド化は難しいと思う。漁業者は少しでも高く売れるところへ水揚げをしている。防ぐことは難しいと思う。観光漁業に力を入れることも検討されたい。</p>	<p>・笠岡市主催として、学校単位での漁業体験学習として大島での「大島海辺の教室」と市内在住の親子参加による白石島での「親子ふれあい地引網」を開催し、大変好評を博しています。継続して実施していきたいと考えます。</p> <p>→ ・従来から高島などで実施されている漁業者個人の「観光漁業」は、近年、減少傾向にあります。そこで、新たに、漁協を窓口、組織立っての「体験型観光漁業」（低料金（1人1,000～2,000円）で定置網、底びき網漁業）を検討していますが、漁業者の操業時期との調整、市民参加者の冲合いでの落水事故等への安全対策・災害時の責任及び保障、荒天時の開催不可の判断・連絡方法など多くの解決すべき問題があり、事業開催には至っていないのが現状です。</p> <p>今後の対応として、観光部署が行っている島めぐりツアーとの連携、道の駅の来場者への誘致などで体験型観光漁業の推進により漁業振興を図っていきたいと考えます。</p>

＜6.平成26年度の振り返り＞(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。	C
	B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。	
	C: 施策を構成する事業が一部遅れている。	
	D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	

＜7.施策の課題と改善案＞

課題と 改善案	<p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者、漁協、漁業関係団体、行政機関などと協働で、平成26年度に「浜の活力再生プラン」策定と組織づくりをし、向こう5年間の漁業振興並びに漁業者の漁業所得向上に向けての具体的な取組内容を計画した。計画策定で終わることなく、今後、笠岡市の水産業全般についての課題解決の手法(漁村地域全体の活性化や漁業コストの低減対策)など、段階的に実現し、実態に応じてプランの軌道修正をする等、今後、引き続き協議検討していく必要がある。 ・豊かな海の再生事業(アマモ場の再生等)をスタートさせた。持続可能な事業展開、協力体制の構築に工夫が必要である。 ・市内の水産物直売所や荷さばき所が、「笠岡のおいしい魚」を情報発信する場となかなか得ていない。付加価値をつけた特色ある漁獲物の取扱いができるようしくみづくりにまで至っていない。 ・過年度実施の漁業体験学習事業は参加者の満足度が高い事業であるが、受入態勢における課題や事業の分析、他事業とのタイアップなど、引き続き事業継続に向けての検討が必要である。 <p>＜改善案＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「浜の活力再生プラン」の年度ごとの進捗状況の分析・評価を行い、関係機関との情報共有を図る。 ・アマモ場の再生事業については、県内の先進事例に学び、市内漁業関係者の取組をシステム化し、広く市民の取組につながるよう、市民参加型の事業化に向けて検討する。 ・引き続き、付加価値をつけた特色ある漁獲物の取扱いや、「魚食」「地産地消」「食育」推進の観点から、旬の魚のPR及び販売促進のための、生産者、流通業者、消費者をつなぐ事業を検討し、年次的に取り組む。 ・漁業体験学習事業は、受入側のヒアリングなどを実施し、体験メニューの内容や実施場所等、再構築する。
------------	---

＜8.委員による評価結果＞

総合 評価	<p>A: 計画どおり進行している。</p> <p>B: おおむね計画どおり進行している。</p> <p>C: 計画より一部遅れている。</p> <p>D: 計画より遅れている。</p>	C	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	C
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物の特徴(たとえば栄養素等)を生かしたブランド化可能な基準作りが必要と考えられます。 ・今後瀬戸内海は水産物が取れなくなる可能性がある。そのため魚の養殖を検討してもらいたい。その場合には、大手の水産会社の誘致、内陸部での淡水魚の養殖、大学(例として福山大学の海洋生物学科)等との連携も視野に入れて欲しい。 ・海水温が上がり、漁場の環境改善が望まれる。産学官金が連携し、漁場の安定に努めてほしい。新鮮な小魚は美味しく魅力がある。 			